



三木高大 自治会新聞

発行 三木市高齢者大学学生自治会
発行責任者 自治会会長 米村 隆
編集者 自治会新聞編集委員会
発行日 2021(令和3年)11月4日
<http://koureisyadaigaku.cccp.jp>

これからの三木市高齢者大学

三木市高齢者大学

学長 井上 京子



高齢者大学へのお誘いをしたら、「ボランティア活動があるのでしょ
う？」その時、外野から間髪入れずに「ボランティアさせられる
で、やめとき！」の声。これが入学を拒む理由の一つであり、この
イメージを変えていかねばと思いました。社会貢献やボランティア
活動は大事なことですが、自主的なものであり、強制するものでも
されるものでもありません。

近年、入学者減少の傾向が進み、その理由を私なりに分析しています。

㊦定年延長引き上げ・高年齢者雇用 ㊧年金減額・受給年齢引き上げ等、社会情勢の変化
で60歳以降も働く人が増加しています。㊨学びの場や機会の増加（公民館・カルチャー
スクール・ネット等）㊩大学の設置場所（瑞穂は不便）㊪三木市の課題・事務局の課題・
自治会の課題が考えられました。

そこで、事務局としてできる課題から何とかしたいと努力しています。三木市教育委員
会との協議・授業評価の実施・講師選択の拡充と講座充実の対策から講じています。また、
入学者の増加につながるPRの方法や卒業後も三木市高齢者大学で学べるシステムが作れ
ないものかも模索しています。

学ぶことは知識や教養が身につくだけでなく、学ぶ「場」を通じて新たな人との出会い
があり、新たなつながりが生まれ、自分を見つめ直すきっかけとなって自分を再発見でき、
これまでとは違う豊かなライフスタイルを築くことができるのではないかと考えます。学
びは楽しむことが大切です。しかし、「楽しむ」とは、おもしろおかしいだけではありま
せん。時には頭を抱え考えながら学び、充実感や達成感を味わい、それが少しでも自信と
なれば嬉しいことです。そして、その学びがどこかで誰かのお役に立ったり活かされたり
できるならこんな素晴らしいことはありません。

地域の中や各種団体やグループで、代表・役員・世話役をされて活躍しておられる卒業
生がたくさんいらっしゃいます。何を目的に学ぶかは人それぞれで異なり、学びを活かす
場面も異なるわけですが、これからの“人生100年を生きる”という視点に立ったとき
には、学ぶだけに止まらず、その学び・経験を地域の中心的な立場として活かしていく社
会になっていくと思います。自分ができることや、やりたいことにつなげていけることは、
個人にとっても望ましいと考えます。

当大学で学ばれたら、地域社会で信頼され尊敬される高齢者と評価される三木市高齢者大
学でありたいです。

今、私達の高齢者大学自治会は大きな曲がり角に来ています。背景にあるのが近年の学生数の極端な減少です。

それに追い打ちをかけるように自治会活動をしにくくしたのが新型コロナウイルスの感染拡大でした。そんな時期に自治会の会長という役割を引き受けることになったのです。もとより、自治会を真剣に勉強したことなどありませんから、深い内容は書けませんが、思いを書いてみようと思います。それがこれからの自治会活動の在り様・方向を考えてもらうきっかけになればと思うからです。

今、大学では学生数に見合った自治会活動の在り方を探るため第三次の TF 委員会が活動しています。その中では、自治会活動の原点に戻って、「自治会は必要なのか」が話題になることがあります。実際、なくても大学は継続できますが、私は必要と考えています。それは、大切な人間関係を作り、深めるために必要な仕組みと考えるからです。数年間顔を合わせるのに良い人間関係が無ければその生活は随分味気ないものになってしまいます。

こういった背景や経過を踏まえて、本年度の活動方針を「学びを楽しみ、絆を深めよう」とし、設定に当たって大切にしたのは、「楽しい・継続・見直し」ということでした。

「楽しい」ということについては、自分を生かす楽しさ、自分の再発見、新しいことへの挑戦、新しい人間関係づくりといった楽しさのイメージでしょうか。一人一人が高齢者の強みである経験や個性を発揮して活動して欲しいと願います。自治会が何をしてくれるかではなく、自分が自治会に何ができるかです。

「継続」についても、組織や行事・親睦の在り様など先輩方がどんな考え方を大切にし、それを積み上げ、形として残してこられたかを学ばなければなりません。ゼロから作り上げるのは大変な時間と労力が必要です。良いところはしっかり継続していくのです。

最後に「見直し」です。言うまでもなく学生数の減少に見合った簡素化と効率化です。この原稿が記事になる11月にはTF委員会でかなり具体案が出来つつあると思います。

この原稿を書きながら、思い浮かんだフレーズがあります。アメリカ合衆国第16代リンカーン大統領の有名な演説を引用して、締めくくりたいと思います。

みんなで楽しく～(^_^)♪

「学生の 学生による 学生のための自治会活動」

が出来ればいいなあと思っています。

高齢者大学に入学してあっという間に一年が経ちました。パソコンのことは何も解らないのですがパソコンを使えたら格好いいな～と思い情報学科を専攻しました。

情報学科は、男性3人・女性8人の合計11人と少人数、これなら何もわからない私にでも出来そうと思いました。

講師の藤井先生の横の大きなスクリーンを使ってパソコン用語・キーボードの使い方等を丁寧に教わりました。

藤井先生の話聞き乍ら自分でもやるのですが、なかなか上手くいきません。

理解する力も年とともに鈍くなって来ているのか、質問する事も度々ありましたが解からないことばかり。その都度、丁寧に説明して頂くのですが、皆さんのように理解出来ずにいました。でも少しずつキーボードの使い方も分かり、ようやく便利だな～と分かって来たように思います。今では1年前に比べたら短い文書なら時間をかければなんとか打てるようになって来ました。やったー！

講師先生に感謝です。これからもパソコンから沢山の情報を得乍ら学び成長して行きたいと思います。

2年2班 高原 智子



ひろば(1)

介護現場で頑張られている皆さんにエールを！

私は一般企業で28年間勤務してから50歳で介護福祉の世界に入り15年間働きました。退職後、私はひとり息子なので親の介護をしまして昨年看取りました。

その後体調を崩して、入院手術を経て家に引きこもりがちになりましたが、今年度より高齢者大学に入学させて戴き体力と気持ちの復調を目指しています。

現在、とても胸が痛むのはコロナ禍の中奮闘されておられる医療関係者はもちろんですが、人出不足の中でコロナの集団感染のリスクと向き合って日々要介護者と向き合っておられる介護現場の皆様です。

私も通算8年間高齢者介護施設で勤務致しました。在職中に過酷な労働状況の中でノロウイルスや原因不明の腸炎の集団感染に巻き込まれ職員にも感染者が出たことを見ました。でもコロナの災禍はそれどころじゃありません。

医療従事者へのワクチン接種は終了しましたが介護従事者への接種は進んでいるのでしょうか？肉体、精神の疲弊はいかばかりでしょうか。

何にも出来ない事がとても辛いです。

今の私に出来る事は介護現場で頑張っておられる皆さんにエールを送ることだけです。

介護現場で奮闘なされている皆さんへ、決して良い労働条件でない中で多くの命を救って頂き有難うございます。皆さんは御大層な理屈で動いておられません。ただ目の前の命を救うことに最善を尽くしています。有難うございます。でも、それが一番難しい事ですよ。近年ごく一部の馬鹿者が事件を起こして介護現場のイメージを貶めるのを腹立たしく見ていました。でもヒーローはみんなが一番苦しいときにやってきて助けてくれます。

「フレイフレー介護、頑張れ頑張れみんな」介護OBの親父から、少し気恥ずかしいですが感謝のエールを送ります。皆さん本当に心から有難うございます。



我が学年 32 名、希望と不安との思いでスタートしたことを覚えています。

学年の愛称は「reiwa1 元気はつらつ」に決まり、「5 本ものホールインワンが出たスポーツ大会」「意見発表会」「体育祭」「研修旅行」「大学祭」と次々と行事が終わり、良い経験と思い出づくりができました。

2 年生 3 年生では、コロナウィルス感染防止のため休校等で各行事の中止が余儀なくされました。また、2 年間で学友 6 名が退学され寂しい事態となりました。この状況に歯止めをかけなければと感じ、なにができるのか考える日が多くなりました。その度にいつも学年通信を通して「思い出」や「行事」等を伝えてくれた学年通信制作者に「感謝」しています。

さらに昨年に続き、学年通信に意見発表会が中止であるとの記載がありました。実は、昨年も今回も私が発表する予定でした。昨年の発表テーマは「高大との出会いと 1 年」、今回のテーマは「高大との出会いと 1 年+1 年」と考えていました。発表の際にクラブ活動等で様々な事を教えて頂き、OB の方々へ「感謝」と「御礼」を伝えたかったが聞いて頂くことが出来ず大変残念でした。

最後になりますが今でも OB の方々との交流があり、つい先日も玄関のチャイム音で外へ出てみると OB の方が元気かと声をかけにきてくれました。クラブ活動を通じ、たくさんの方と交流する機会をもつことができ、仲間に出会えたことは私にとって「財産」です。高大にも仲間にも感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

3 年 2 班 池田 義昭

ひろば(2)

人との出会いに感謝しながら・・・

2016 年 7 月 1 日、33 年間住み慣れた神奈川県藤沢市から、この三木市に越してきました。私には、54 年ぶりの兵庫県で、播州弁がなつかし〜い。

岩手県出身の夫が転勤で大阪に来ている時に、私達は社内結婚をしました。夫は、関西にも友人が多く「人生の終盤は馴染みのある住み易い関西もいいなあ。」と言ったこともありました。

藤沢では、夫は男声合唱・市民オペラ・ゴルフを。私は卓球・油絵などを楽しんで過ごしてきました。又、ホストファミリーとして、タイ王国からの留学生二人を 5 年間お世話し、壮大な卒業式に参列しました。2 年前、その一人が結婚。タイの披露宴に行き、日本の「父母」として紹介され、立派に成長したその姿に感動しました。

そんな日々を重ねていたある日、夫が「妹さん夫婦が住んでいる三木市の青山に引越しか？環境も良いし、新幹線や飛行機の利用にも便利、今後のことを考えると、実家や姉妹のいる兵庫県なら心強いぞ。今なら体も元気で色々なお手伝いも出来るしな。」と私の今後を考えて話をしました。

三木市に住んで早 5 年、あの時、決断して良かったと今も思っています。周りの方々に恵まれ、夫は神戸男声合唱団に入り、近隣の方とゴルフなどを楽しんでいます。私は高大で学び良き皆様と語り、卓球・パソコンなどで楽しんでいます。

又、地域の社会福祉にもかかわり、人と人とのつながりの大切さを感じています。

コロナの収束を願いながら、新しい土地での人との出会いに感謝し、この三木で人生終盤の生活を夫婦で楽しみたいと思います。

2 年 1 班 大下 美代子